

人口減少社会に 直面する保健師たち

2023年12月、国立社会保障・人口問題研究所より「地域別将来推計人口」が発表されている。それによれば、少子高齢化の進行により、東京都を除く全ての道府県で人口が大きく減ると推計されており、2020年時点で1億2615万人であった総人口は2050年には1億468万人になる見込みだ。本特集では、人口減少社会へと移りゆく中で生じる公衆衛生上の課題、保健師に求められる能力を整理する。また、事例を通じて、各市区町村の保健師たちが人口減少に伴う課題をどのように受け止め、いかに取り組み、今後を見据えているかを報告する。

- 人口減少社会における公衆衛生上の課題と保健師活動
- 人口減少社会に求められる保健師の実践能力「想定外を想定する能力」
- 保健師の副町長として考える、人口ビジョンを踏まえた健康なまちづくり
田原本町の取り組み
- 人口減少時代の母子保健活動
切れ目のない支援「ゆりかご・としま」で持続発展都市へ
- 人口減少の中で行う、「暮らしの保健室」を軸に置いた活動
肝付町の取り組み